

よげんしゃさま^{さん}のヒジュラ



マッカで、ムスリムがたくさんひどいめにあうようになると、アッラーのめいれいにより、ムスリムたちは、ひそかにマディーナへと移住（ひっこし）をはじめました。よげんしゃさま^{さん}は、さいごまでのこり、アッラーのめいれいがくるのを待ちました。

親友^{しんゆう}のアフーバクルさまと、いとこのアリーさまも、まだマッカ

にいました。そのころ、てきの多神教徒^{たしんきょうと}たちは、よげんしゃさま

をみんなでころすけいかくをたてていました。アッラーからヒジュラのめいれいがくだと、よげんしゃさまは、アフーバクルさまのいえへいきました。アフーバクル

さまは、よげんしゃさま^{さん}といっしょにいけることを泣きながらよろこ

び、よういしていたラクダをのりものとしてさしだしました。よげんしゃさま^{さん}は「ただでもらうことはできません」と、そのだいきんをはらい、ラクダをうけとりました。そのラクダのなまえはカスワでした。



そして、ヒジュラによる、ジブリールさまがしらせにきたアッラーのめいれいにしたが、よげんしゃさまのねどこで、かわりにアリーさまがよこになりました。そして、よげんしゃさま^{さん}は、マッカのひとたちからあずかっていたものを、アリーさまにわたして、「きちんともちめしに

かえしてください」とおねがいしてから、よなかに家^{いえ}をでて、アフーバクルさまの家^{いえ}へむかいま

した。このとき、家のまわりでみはっていたひとたちは、アッラーの力^{ちから}によって、ねむくなり、

よげんしゃさま^{さん}のでていくすがたをみることはできませんでした。



© Can Stock Photo

よげんしゃさま^{さん}とアフーバクルさまは、マディーナとは、ほん

たいのほうこうの、サウル山^{やま}のどうくつへむかいました。そこへ

たどりつくまで、アフーバクルさまは、よげんしゃさま^{さん}をまもるために、よげんしゃさまのまえやうしろ、みぎやひだりへとうごきながらすすみました。そして、「なにかわるいことがあれば、わたしにおきてほしい、とねがっています。あなたのためにわたしはぎせいになります。」といいました。どうくつについたあとも、アフーバクルさまはよげんし

ゃさま^{さん}に外^{そと}でまっけてもらい、じぶんがさいしょに^{はい}入って、中^{なか}をてんけんしました。そして

で、たくさんあった穴^{あな}を、じぶんのふくをちぎってつめこみ、ふさぎました。さいごにのこった

ひとつの穴は、じぶんの^{あな}足でふさぎました。どうくつの中で、アブーバクルさまのひざの上でよげんしゃさま^{あし}がおやすみになっているときに、とつぜん、アブーバクルさまの足をサソリがかみました。しかし、アブーバクルさまは、よげんしゃさま^{あし}をおこさないようにとひっしにいたみをかまんしましたので、よげんしゃさま^{あし}は、アブーバクルさまの^{なみだ}涙がかおの^{うへ}上におちるまで、そのことにきづかないほどでした。



そのころ、てきの^{たしんきょうと}多神教徒たちは、どうくつのすぐ前までやってきていました。てきがちかづいてくるのをみて、アブーバクルさまは、「かれらがあしもとをみれば、わたしたちはみつかつてしまいます!」としんぱいしました。すると、よげんしゃさま^{あし}は、「しんぱいしてはならない。アツラーはわたしたちといっしょにいらっしゃる。」といました。そのとき、ど



うくつのいりぐちにクモが^す巣をはり、ハトが^す巣の^{なか}中で^{たまご}卵をあ



ためていたので、^{たしんきょうと}多神教徒たちは、どうくつ^{なか}の中を^み見ず^にに

てしまいました。



よげんしゃさま^{あし}とアブーバクルさまは、このどうくつの中で3かかん、すごしました。アブーバクルさまのむすこ、アブドゥウツラーさまが、よるになると、マッカのようすをつたえにきました。また、ひつじをつれてきては、

よげんしゃさまたちにミルクをのませ、ひつじをつれてかえることで、^{あし}足あ

とをけしました。アブーバクルさまのむすめ、アスマーさまは、おなかにあかちゃんがいきましたが、よげんしゃさま^{あし}たちのためにどうくつまでたべものを^{あし}はこびました。



そして、4かめにはどうくつをしゅつぱつし、マディーナへとむかいました。マディーナにはよげんしゃさま^{あし}のおうまれになった^ひ日である、ラビーウルアウワルの12日^{にち}につきました。